



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：310千円

ホスピタルアートプロジェクトしずおか

目的・趣旨

病院の患者・利用者・職員の医療以外の繋がりを生み出すことで療養環境をよりよくするための試みとして、アートやデザインの力を医療領域に生かした活動を実践する。また、本活動のプロセスと成果を発信することで、静岡県内の医療機関における患者の療養環境へ関心の向上を目指したい。病院でのアートやデザインを生かした活動はまだ認知度が低いが、県内においては本学だからこそできる活動であり、本活動を通して学生の視野が広がることを期待する。

日時・場所

平成 30年 4月 1日から平成 31年 3月 31日
静岡県立こども病院、浜松労災病院

体制

(実施代表者) 文化政策学部 芸術文化学科 准教授 高島 知佐子

共催・後援等

(共催) 静岡県立こども病院、浜松労災病院
(協力) 静岡文化芸術大学 自助具デザインプロジェクト (JDP)

内容

浜松労災病院では、本学で自助具を作るプロジェクトを進めているJDPの協力を得て、同病院内（外来と病棟の複数箇所）で自助具展を開催した。静岡県立こども病院では、昨年度開催した「いきもの作り」ワークショップに続く活動として「まちをつくろう」と冠したワークショップを入院患者、ご家族、職員等を対象に開催し、後日病院内で作品展を開催した。



結果・成果

浜松労災病院での自助具展には、作業療法士や入院患者等が参加し、こういった活動を続けて欲しいとの声をいただいた。また、JDPで活動をする学生からは実際に道具を使用する立場の方と接することができたことが有益だったとの意見があった。静岡県立こども病院でのワークショップは、感染症の拡大から今年度初めて複数の病棟内でも開催したため、多くの患者が参加し、患者、家族、職員等から好評だった。また、ワークショップの翌週に展覧会を開催したことでワークショップに参加した人が多く展覧会を訪れた。他の人々の作品と自分の作品で出来上がった「まち」に感激の声が多く寄せられた。

